



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第6回国立病院機構「精神医学セミナー」in沖縄を開催します!

琉球病院精神医学セミナー事務局

国立病院機構の精神科14病院では、毎年、精神科専攻医を目指す若手医師のための精神医学セミナーを開催しております。昨年は長野県軽井沢町にて開催され、70名近い参加者が集う盛況なセミナーとなりました。

第6回となる今回は7月8日(土)~9日(日)の2日間にわたり、沖縄県那覇市で開催します。今回は琉球大学大学院精神病態医学講座教授 近藤 毅先生による特別講演や、若手医師による研究成果報告等の内容となっています。梅雨明けの沖縄で充実した学びの場や交流の場を計画していますので、精神科専攻医希望者の方は奮ってご参加ください、めんそーれ!

＜お問い合わせ先＞
 国立病院機構 琉球病院 セミナー事務局
 TEL 098-968-2133
 E-mail psemina@ryu-ryukyu.jp

■ 昨年の軽井沢でのセミナー風景 ■




院長
 福治康秀(ふくじ やすひで)
 1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
 1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本病院・地域精神医学会理事。

診療科	・一般精神科	
	・こども心療科	
	・物忘れ外来	
	・アルコール依存症等外来	
病床数 406床	・精神科病棟	181床
	・認知症	50床
	・アルコール	54床
	・児童思春期	
	ユニット	4床
	・重症心身障がい	80床
	・医療観察法	37床



●アクセス
 路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
 自動車/那覇市から40分
 沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと	●病棟等建替整備の動き 進捗状況 本体工事：新病棟(第1期工事)完成 平成27年7月 新病棟(第2期工事) (株)九電工 雨水配水管盛替工事 完成 平成29年2月 重心病棟建替等工事 完成予定 平成30年10月
教育・研修	●CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修 院内フォローアップコース 日時：平成29年5月15日(月)8:30~17:00 場所：研修棟会議室・ジム室

地域医療連携室だより

当院では、アルコール専門病棟があり毎日、ご本人、ご家族、関係機関からの相談に応じています。また、アルコール専門の看護師による専門相談も行っており、アルコールの知識やご本人に対する対応方法等レクチャーをさせていただいております。ご本人が、受診を躊躇されている場合はご家族のみでも相談をお受けいたしておりますので、お気軽にご相談ください。ご相談される方は事前に地域医療連携室へご連絡ください。

NHO PRESS~国立病院機構通信~について

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。[NHO PRESS]で検索してください。

NHO PRESS 検索 QRコード

お問い合わせ時間
 8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
 TEL: 098-968-2133 (代)
 内線: 231・234
 地域医療連携室(直通)
 TEL: 098-968-3550
 FAX: 098-968-7370

空床状況 4月27日現在	精神科病棟 4床	認知症 7床	アルコール 0床	児童思春期ユニット 2床
------------------------	--------------------	------------------	--------------------	------------------------

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年に治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は197例になりました。平成29年2月のCLZ導入は4例で、このうちの3例は他の病院からご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT(修正型電気けいれん療法)の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成29年2月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

こども心療科では、昨年に引き続き、年齢や子どもの課題に合わせたグループを開催します。5月からは、ご家族を対象に、発達障害の理解や日常生活での関わりについての学習・情報交換を目的とした「保護者会」、6月には、小学生のお子さんを対象に、注意力や対人関係、体の使い方に対するトレーニングを目的としたグループがスタートします。

年度途中からの参加も可能ですので、興味・ご関心のある方は、こども心療科までお問い合わせください(※グループは当院を受診している方が対象です。受診歴のない方は、診察が必要となります)。

認知症医療

ことし4月、京都で認知症についての国際会議が開かれます。多くの人にとって切実な問題となっている認知症。専門家は、団塊の世代が75歳以上になる2025年、認知症が原因のトラブや事故が多発することを警告しています。中でも高齢者ドライバーによる重大な自動車事故はニュースにも度々とりあげられ社会問題となっています。背景には認知機能が低下しているにもかかわらず、必要に迫られ、あるいは認知機能の低下に気付かないまま、運転を続けているドライバーの存在があり、こうした問題を受けて2017年3月12日から道路交通法が改正されました。改正道交法の免許更新手続きでは、75歳以上の高齢者は、認知機能検査で「認知症のおそれ」があると判定された場合、違反の有無にかかわらず医師の診断を受けなければならなくなりました。また、75歳以上のドライバーの場合、免許の更新時だけでなく、一定の違反行為をした場合にも、臨時の認知機能検査を受けなければならないこととなります。そして、この場合も免許更新時と同じく、「認知症のおそれ」と判定された場合は、医師の診断を受けなければなりません。もし医師から認知症と診断された場合には、免許取り消しあるいは停止となります。この法改正により、認知症のドライバーの早期発見、高齢者ドライバーの事故を減らすことが期待されます。身体や認知機能の低下など運転に不安のある高齢者ドライバーの免許証自主返納については地域の包括支援センターなどでご相談ください。

認知症は誰でもなる可能性がある病気です。認知症になってしまうと運転を続けることはできません。公共の交通手段に限られる沖縄では生活の基盤を揺るがす重大な問題です。今のところ認知症を完全に回避する方法はありませんが、適切な予防策によって認知症にかかりにくくすることができるとされています。琉球病院では認知症の診断、治療だけでなく認知症の健常者と認知症の中間にあたる、MCI(Mild Cognitive Impairment: 軽度認知障害)という段階(グレーゾーン)の方のための認知症予防教室を開催しています。専門的なトレーニングで認知機能を正常に保ち、今の生活を長く続けられるようにご自身はもちろん、ご家族や身の回りの大切な人のために物忘れが気になりだしたら是非当院の地域連携室までご相談ください。

重症心身障がい医療

今回は九州地区重症心身障害研究会についてご紹介したいと思います。この研究会は九州地区における重症心身障害児(者)の医学・看護・療育の研究・研修を推進し、重症心身障害者のQOLの向上に寄与することを目的に、重症心身障害者医療・療育に関連する医師、看護師、児童指導員、保育士、理学療法士等が一同に会し、日頃の研究成果の発表をおこない、知識の普及向上の場となっています。今回は鹿児島県で開催されましたが、今回は沖縄県での初開催となります。県や県内の重症心身障害施設と連携し、成功できるよう関係者一同準備をすすめています。来年の3月10日(土)会場は沖縄県男女共同参画センター「ていりる」を予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では2月現在、外来通院の患者様78名、入院中の患者様28名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めます。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

4月には、訪問看護のスタッフの配置換えがあり、新メンバーが新たにスタッフの仲間になりました。訪問看護から入院病棟へ配置となったスタッフもあり、4月～5月にかけては環境変化を避けて通ることができない時期でもあります。当院の訪問看護を受けている利用者様も新しいスタッフとの関係構築ができるまで緊張をしたり、話がしづらかったり等、多少の変化を受ける時期でもあります。社会生活をしているうえで、避けて通れないことでもあります。慣れ親しんだ人たちの別れは経験することでもあり、そのような場合に、強いストレスにならず、大きな病状の波を受けず、安定するための対処法をいくつか準備をしていくことはとても大事なことです。本人にとっての自覚はなくても、眠れなくなる、イライラが強くなる、食欲がなくなる等の変化を自覚した時にちょっと注意信号かな?と思うときには身近な方へ相談をしてください。

臨床研究部活動状況

第50回琉球セミナーのご報告

平成29年4月24日に池田匡志先生(藤田保健衛生大学 医学部 精神科 准教授)と齊藤竹生先生(藤田保健衛生大学 医学部 精神科 講師)のお二人の先生をお招きし、精神「疾患の遺伝子研究」と「クロザピンの薬理ゲノム学研究」について、ご講演いただきました。

当院は、藤田保健衛生大学とクロザピンの薬理ゲノムの共同研究を行っており、その研究成果を齊藤先生がまとめられた論文が日本臨床精神神経薬理学会の2016年ポール・ヤンセン賞を受賞されました。現在も共同研究は継続しており、講演ではクロザピンの薬理ゲノム学研究の成果だけでなく、藤田保健衛生大学で行われている最先端の精神疾患の遺伝子研究についても講演いただきました。院内外から多くの方にご参加いただき会場は満席となりました。

